

トピックスレポート：アフリカ全域

IMF「世界経済見通し」2017年4月 アフリカ地域

 アフリカ部  
 中東部  
 Tel: 03-4330-1100 (代)  
 research@jcif.or.jp

## 要 旨

2017年4月18日、IMF（国際通貨基金）は「世界経済見通し（World Economic Outlook, April 2017）」<sup>1</sup>を公表した。本稿は、このIMFのレポートのうち「個別国・地域の経済見通し（Growth Outlook for Individual Countries and Regions）」より、アフリカ関連部分を抄訳したものである。

## (1) IMFが「世界経済見通し」の2017年4月版を公表

2017年4月18日、国際通貨基金（IMF）は年2回発行の経済展望レポート「世界経済見通し（World Economic Outlook）」の17年4月版を公表した（前回は16年10月）。同レポートは世界経済の現状、課題、先行きに関するIMFの見解を示すもので、中立・正確かつ信頼の置ける経済展望レポートとして各国政府関係者やエコノミストに広く読まれている。

公益財団法人国際金融情報センター（JCIF）は、IMFの了承の下で同レポートの国・地域別見通しの和訳を作成し、JCIF会員に公開している。本稿は、この和訳からアフリカ諸国に関連する箇所を抜粋し、アフリカ開発銀行との連携の下で一般公開するものである。

翻訳に際しては専門的な表現から平易な言葉への言い換えを適宜行ったほか、本稿の体裁に合わせ項目番号を付した。なお、IMFの地域分類ではアフリカ大陸は「サブサハラ（サハラ砂漠以南）アフリカ」と「中東・北アフリカ・アフガニスタン・パキスタン」の2つの地域に分割されている。

## (2) 「世界経済見通し」和訳

## (イ) サブサハラ・アフリカ

**サブサハラ（サハラ砂漠以南）のアフリカ**では、17年は緩やかな回復が見込まれる。16年に厳しいマクロ経済環境に直面した大国における特殊要因に牽引されるかたちで、成長率は17年+2.6%、18年+3.5%になると予測される。**ナイジェリア**の成長率は、16年は石油部門における混乱が外貨、電力、燃料の不足とも相俟って-1.5%となったが、17年は石油生産の回復、農業生産の持続的拡大、公共投資の増加を受けて+0.8%と予測される。**南アフリカ**では緩やかな回復が見込まれ、一次産品価格の持ち直し、干ばつ状況の改善、電力供給力の拡大によって、17年の成長率は+0.8%と予測される。**アンゴラ**も、公共投資の拡大や交易条件の改善による非石油部門の拡大によって、17年の成長率はプラスに転じ+1.3%を見込んでいる。しかし、**サブサハラのアフリカの地域全体**の今後の成長見通しは芳しくない状況が続く。地域の成長率は、16年に落ち込んだあと、人口の増加率をやや上回る程度の伸びにとどまるとみられる。一次産品の価格はやや回復しているものの依然低迷しており、ナイジェリア、アンゴラ、中部アフリカ諸国経済共同体（ECCAS）に属する産油国の成長率の上昇を妨げている。このため、多くの一次産品の輸出国は、構造的に低くなった一次産品収入に十分に対応していく必要に迫られている。資源に依存しない大国の多くは、公的債務の増加や信用供与の鈍化に直面しており、以前のように公共投資の拡大で成長を維持するのが一段と厳しくなっている状況を認識するようになるだろう。

## (ロ) 中近東、北アフリカ、アフガニスタン、パキスタン

**中近東、北アフリカ、アフガニスタン、パキスタン**を合わせた地域の短期の成長見通しは弱まっており、17年は+2.6%と16年10月見通しから0.8%ポイント下方修正されてい

<sup>1</sup> IMFによる世界経済見通し全体の総括、および要旨の和訳はIMFの日本語ホームページに掲載されている（<http://www.imf.org/ja/Publications/WE0>）。

2017年5月8日

る。成長のペースが高まらないのは、域内の石油輸出国の成長率低下を反映している。16年11月の石油輸出国機構(OPEC)による減産合意を受け、構造的に低くなった石油収入への財政面の対応が進まなくなり、非石油収入の伸びを覆い隠してしまったことが影響している。域内の多くの国々において対立や紛争が続いたことも、経済活動を損なわせることにつながった。域内最大の経済規模を有するサウジアラビアでは、石油の減産と財政の建て直しよって、成長率は17年に+0.4%に低下すると見込まれるものの、18年には+1.3%へと回復しよう。湾岸協力理事会(GCC)に属する殆どの国々でも同様に17年の成長率は落ち込むと予測される。対照的に、域内の殆どの石油輸入国では、成長率の加速が続くと見込まれ、16年の+3.7%から17年+4.0%、18年+4.4%へと高まる見通しである。パキスタンでは、漸増するインフラ投資に支えられ、成長率は17年+5.0%、18年+5.2%と、広範な回復が健全なペースで進むと見込まれる。エジプトでは、包括的な改革がかなり大きな成長の恩恵をもたらし、成長率は17年の+3.5%から18年には+4.5%に高まると見込まれる。

以上

---

お願い

本レポートに関するご質問やご意見は、下記へお寄せください。ご連絡先のメールアドレス等へお答えします。

地域総括部 research@jcif.or.jp

---

◎ 公益財団法人国際金融情報センター

このレポートは、公益財団法人国際金融情報センターが信頼できると思われる情報ソースから入手した情報・データをもとに作成したものです。公益財団法人国際金融情報センターは、本レポートに記載された情報の正確性・安全性を保証するものではなく、万が一、本レポートに記載された情報に基づいて会員の皆さまに何らかの不利益をもたらすようなことがあっても一切の責任を負いません。本レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、投資その他何らかの行動を勧誘するものではありません。なお、当方の都合にて本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、あらかじめご了承ください。また、本レポートは著作物であり、著作権法により保護されております。本レポートの全部または一部を無断で複製・複製することを禁じます。